

多高通信

第127号 平成28年2月24日発行

全国防災ジュニアリーダー 育成合宿に参加しました

1月14日から4日間で開催された全国防災ジュニアリーダー育成合宿に、生徒会の代表2名が参加してきました。

本校の活動の発表



兵庫県の淡路島にある国立淡路青少年交流の家で全国の中高校生と寝食を共にし、阪神・淡路大震災や東日本大震災の教訓を共有するとともに、防災や減災の知識を学びました。舞子高校で行われた「震災メモリアル行事」では、本校の活動を紹介するだけでなく、他校の取り組みを学ぶことができました。また、21

年前に発生した阪神・淡路大震災の追悼メモリアル行事「1.17のつどい」に参加し、何年経過しても忘れてはならないことを再認識し、自分のできることを改めて考える機会となりました。

■加藤健太(1年3組 塩竈二中出身)

全国の中高校生が行う防

災への取り組みに関する発表や講義を通じて、防災への意識を深めたり考え方を広めたりすることができました。東日本大震災の当時、まだ小学生だった私はただ恐怖に怯えるだけで、学校の先生や家族に助けられるばかりでした。しかし、高校生となった今、助ける立場になりたいと考えています。直接体験したからこそ、それらを後世に語り継ぎ、次に同様の災害が起きた時に犠牲者を少しでも減らせるよう努めるといったのが私たちの使命だと思います。今回の経験を踏まえ、災害の風化を防ぐ取り組みや、地域の小中学校への出前授業などを通して、地域の輪を広げていきたいです。



1.17メモリアル行事の様子

「アクティブラーニング」

小林昭文先生 公開授業研究会

1月21日、アクティブラーニング型授業の第一人者で産業能率大学教授の小林昭文先生を講師にお招きし、公開授業研究会を開催しました。

アクティブラーニングとは、教室内でのグループディスカッション、ディベート、グループワークなどを通して、学習者が能動的に学習することで社会に

英語の公開授業の様子。グループで協力し学習します。



幅広く活用できる能力の育成を図る学習のことで、近年大きな注目を集めています。研究会では、午前中に本校教諭の公開授業とその授業の振り返りが行われました。公開授業ではオールイングリッシュでグループ学習を中心据えた

活発な学習が展開され、小林先生から各グループへの声かけの仕方によって生徒が自然に競い合う環境が生まれ、集中力が高まること等のアドバイスをいただきました。

また、午後には講師の小林先生の特別授業が行われました。アクティブラーニング型での授業に当初は戸惑っていた生徒も、小林先生の声かけによって、どのように取り組むべきかをつかんでいきました。授業後に生徒が記述したリフレクシオンカード(授業の振り返りカード)には、「普段ではなかなか覚えられない公式も、グループで話し合いながら取り組むと自然と覚えられていて驚きました」「内容



小林先生の特別授業

を理解しようと思う気持ちや、友達と相談しながら問題を解いてテストをすることで、『考える力』が身につく授業でした」など、新しい授業スタイルに手応えを感じていたようでした。

CSSC連携 情報セキュリティ実習

1月25日から27日、CSSC(技術研究組合制御システムセキュリティセンター)研究員の方々に講師にお迎えし、2学年の授業「情報の科学」の一環として制御システムセキュリティの実習を行いました。制御システムとセキュリティ技術、サイバー攻撃の概要について講義を受けた後、体験シナリオに基づいて模擬システムでの制御の実際や遠隔操作を体験しました。さらに、グループワークで模擬システムを守るアイデアを検討・発表し、情報社会に欠かせないセキュリティについて考察を深めました。

■長田千尋

(2年2組 塩竈二中出身)

今までは制御システムという言葉聞いたことはありましたが、具体的にはどういったものなのかよく分かっていませんでした。しかし、体験シナリオを使っているグループワークを行い、どうしたらサイバー攻撃からシステムを守ることができるのか、どうしたら未然にサイバー攻撃を防ぐことができるのかを自分たちで考えたことで理解を深めることができました。



HOKKAI DO サイエンスフェスティバル

1月25日、科学部浦戸巡検生物班の2名が、北海道大学フロンティア応用科学研究棟レクチャーホール(鈴木章ホール)で行われたHOKKAI DO サイエンスフェスティバルに参加してきました。このサイエンスフェスティバルは、北海道地区のSSH指定校の研究発表発表を行う場です。来年度から本校と交流予定の北海道室蘭栄高校の紹介により、北海道教育委員会や北海道旭川西高校のご厚意で本校も発表の機会を得ることができました。

多賀城高等学校が取り組む防災・減災教育についてや、マツ類のハイブリット調査について発表してきました。本校の津波標識設置活動、宮城県の復興状況、ハイブリット松の特徴や樹齢による差などについての質問を受けました。

■参加生徒の感想

SSH発表会への参加は2度目でしたが、今回は北海道、しかも会場は北海道大学での開催ということで、たくさんの方の刺激を受けました。

私たちは道外の高校生ということで何かと注目されましたが、初めての口頭発表で大変緊張し、質疑応答では準備不足から失敗もしてしまいました。自分たちの口頭発表は多賀城高校の活動紹介でしたが、他の学校は主に研究発表で、同じ高校生が展開している活動の範囲のスケールとレベルの高さに驚かされました。私は話を聞くのに精一杯で質問等ができず、置いて行かれる感じが悔しく感じられました。また、ポスター発表は2回目だったこともあり、自分としては簡単に説明できているつもりでしたが、他の学校のポスターの内容は、先輩から引き継いだ研究内容などが多く、踏み込んだ内容まで発展させた発表でした。発展的な内容でも丁寧に説明することができると舌を巻くばかりで、私もその技術を見習いたいと感じました。

いろいろな分野の研究が共同の場で発表を行う機会は、研究者としての見識の視野が広がるので、とても勉強になりました。

「陽光桜」を植樹しました!

愛媛県立東温高等学校の皆様より寄贈いただきました本校セミナーハウスの前に植樹しました。東温高等学校の皆様が、本校合唱部が出演した「ARASHI BLAST in Miyagi」のテレビ番組をご覧になったことがきっかけで、本校へお送りいただいた校です。

■魚住なちか(2年3組 岩切中出身)

今まで私たちは、復興支援活動としてコンサートに出演したり、復興住宅で訪問演奏したりして歌を届けてきました。私たちは1人でも多くの人に歌を届けたいという思いで活動してきたので、そのような思いを受け取ってくれた方々からの贈り物として後世に残せることはとても嬉しいことです。これからも多くの人に多くの歌を届けていきたいと思えます。



ありがとうございます! 開花が待ち遠しいですね。

日本赤十字社・保健特別授業

災害時の救護・医療活動

2月10日、保健の授業の一環として、災害時の救護活動について日本赤十字社の佐藤知和さんを講師にお招きし、特別授業を行いました。東日本大震災の際の日本赤十字社の活動を中心に、私たちが災害時にどう行動するか、どう備えるかを、ご自身も岩手県大槌町の出身で、祖母や友人を津波で亡くされた経験なども交えながら講義をいただきました。



NHKの情報番組「れきまむね」で取り上げられました。

復興庁主催 新しい東北交流会

2月11日、仙台サンプラザで「新しい東北交流会」が「仙台」が行われました。復興庁が主催するこの催しは、東日本大震災から5年が過ぎ、復興の歩みの中で東北各地に生まれた「新たな挑戦」を紹介し、今後の復興のあり方を考えていくという趣旨で、90を越える団体が一堂に会し、取組の内容を各ブースで紹介・展示するものです。災害科学科を開講する本校も招待を受け、生徒会からの代表生徒3名が、ブース出展とプレゼンテーションの参加をしました。



高木復興大臣に本校の活動を紹介しました

阿曾南美(1年1組 多賀城中出身)

プレゼンテーションでは、多高に來年度開設される災害科学科や津波波高標示プレート取りつけ活動などの紹介をしました。展示ブースには、高木復興大臣もお見えになり、多賀城高校が取り組む防災についての活動を説明しました。津波の驚異を忘れないために行っている波高表示板の話に、大臣は熱心に聞き入ってくださいました。本校の活動を多くの方々を知っていただく良い機会になったと思います。

神戸大附属中等教育学校 生徒会交流

2月10日、11日の2日間、神戸大学附属中等教育学校と学校間交流を行いました。本校からは1年生3名が、12月に多賀城高校に来てくれた神戸大附属の生徒会のみなさん8名との交流会に参加しました。



交流会の様子

平塚亜美(1年4組 鳴瀬未来中出身)

今回の交流会では、神戸大附属中等教育学校の発表に参加し「復興」をテーマに意見交換を行い、防潮堤の話や復興とは何かについて話をしました。被災者側とそうではない他県から見た被災地について聞くことができ、考え方が深まりました。

その後、人と防災未来センターを訪れ、阪神・淡路大震災のシアターを見て、震災時の状況を見学しました。神戸には、震災があったことを忘れさせるかのように高速道路や建物がたくさんありました。私はそれを見て安心感を感じたと同時に、東日本大震災もこのように震災のつめあとや記憶が失われるのではないかと不安に思いました。

今回、神戸を訪れたことで「復興」とは何かということについて深く考えさせられました。そしてこれからも、「復興」という言葉に向き合わなければならぬと思いました。



夕食会。美味しい中華を囲みました！

みやぎ高校生フォーラム

2月13日、宮城県庁講堂で「平成27年度みやぎ高校生フォーラム」が開催され、本校生徒会から2名が参加し、ポスターセッションでの発表や閉会行事での挨拶を行いました。今年度は「私たちの志と地域貢献」をテーマに、発表やパネルディスカッションを通して、他校の取り組みやみやぎの高校生の思いを聴くことができました。また、村井宮城県知事のお話をお聞きできる時間もあり、多くの刺激を受けることができました。

ポスターセッションでの発表



発表やパネルディスカッションを通して、他校の取り組みやみやぎの高校生の思いを聴くことができました。また、村井宮城県知事のお話をお聞きできる時間もあり、多くの刺激を受けることができました。

金原龍飛(1年5組 中野中出身)

ポスターセッションでは、今までに本校が取り組んできた活動を一般の方にも理解しやすいように工夫してまとめることができました。本番では、聴きに来た方へはうまく発表できましたが、人が来ないときに「自分から動く」ということができなかったなどの反省点もあります。その後、発表やパネルディスカッションが行われましたが、その中でも海外でいろいろなことを経験してきた高校生によるパネルディスカッションが印象に残っています。海外に行ってみての感想や大変だったことなどを聴いて、今まで考えもしなかった「海外」に対する興味を持ちました。日本にいるだけでは知ることができないことが多く聞くことができ、とてもよい経験になりました。

宮城協働モデルフォーラム

本校からは、情報科と地歴科の教員が発表を行いました。



宮城協働モデルフォーラム「宮城協働モデルによる次世代型教育の開発・普及プロジェクト」が、2月13日に開かれました。宮城教育大学が実施する文部科学省「地(知)の拠点整備事業」による「宮城協働モデルフォーラム」で、本校で取り組んできたICT教育について発表を行いました。このフォーラムでは、社会・地域の要請に応える次世代型の教員養成とは何かについて考えるもので、小学校、中学校、特別支援学校から発表がなされました。本校では、タブレット端末が貸与されてから、どのように授業が変容していったのかを地理の授業を例に取り上げて発表するとともに、授業での活用や教員の変容などの報告を行いました。今後、さらにICT活用教育の推進を宮城教育大学等からの支援を受けながら進めていきます。

家庭部 キンメダイ レシピコンテスト

2月13日、塩竈市水産振興課主催のキンメダイレシピコンテストが行われ、高校生の部で家庭部の「金目パイ」が第3位にあたるドウメダイ賞を受賞しました。今後は、塩竈市がキンメダイのPRを行う際にレシピが活用されることとなります。皆さんも「金目パイ」を見かけた際にはぜひご賞味ください。



豪華な副賞をいただきました！

国土地理院連携 特別授業

2月19日、国土交通省国土地理院東北地方測量部の職員の方々3名から、地理B選択者2年生を対象に、「防災と地図」の特別授業を行っていただきました。国土地理院は、日本で唯一の国家地図作成機関です。測量法や地理空間情報活用推進基本法に基づいて、地理空間情報の整備・更新・活用を推進しています。

今回は、国土利用、開発、防災・減災の観点から国土地理院が作成している電子地図の活用方法についての講話と実習を行いました。電子地理院で作成している電子地図は地理院地図と呼ばれています。この地図はWeb上で誰でも操作できること、過去の航空写真など多くの情報が掲載されていること、標高に応じた色分けなどができること、少しの工夫で自分たちが得た情報をこの地図に重ね合わせる技術を学習しました。



東北工大連携 家庭科特別授業

2月22日、東北工業大学から先生方4名と学生3名を講師としてお迎えし、特別授業を行いました。

授業は2クラスを対象に行われ、前半のクラスでは「安全・安心な住まいとモノのデザイン」をテーマに、民間企業で製品開発に携わっていたご経験をお持ちの先生が製品開発までの流れ・アイデアを紹介して下さった後、地震の際に家具の転倒を防ぐための改善策や製品のアイデアスケッチ作成実習を行いました。後半は「災害時に備える看護学・加齢による変化と安全・安心」をテーマに、加齢による視覚障害やまひの状態を体験し、体験から分かったことや自分たちにできることをグループで話し合いました。



本棚の模型を揺らし、地震の様子を再現します。

どちらの内容も大学の先生方ならではの内容で、生徒たちは楽しく真剣に取り組んでいました。